

〔様式 1〕

事務事業評価表

記入年月日	平成16年4月20日			
平成16年度	事業コード	11310	電話	042-769-8355
担当部課名	保健福祉部	障害福祉	課	
事務事業名	重症心身障害児者通園事業			
予算上の事務事業名	重症心身障害児者通園事業			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第 1 章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第 3 節	障害者の自立支援と社会参加	15 年度
施策名	第 1 施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

(国)重症心身障害児(者)通園事業実施要綱
(市)市重症心身障害児(者)通園事業実施要綱

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

義務的経費

5 事務事業の分類

国庫補助事業

6 受益者負担

あり

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか (中核市移行事務) 市内に在住する重症心身障害児(者)に対し、通園の方法により日常生活動作、運動機能等に係る訓練、指導等必要な療育を行うことにより、運動機能等の低下を防止するとともにその発達を促し、併せて保護者等に家庭における療育技術を習得させ、もって在宅重症心身障害児(者)の福祉に資することを目的とする。	(2)対象(誰、何) 市内に在住する在宅の重症心身障害児(者)
	対象数 82 単位 人
(3)平成15年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容 在宅で生活している重症心身障害児(者)が施設に通園して、リハビリ訓練、合同療育リハレッスン、グループ療育、給食(摂食)サービス等を受けるもの。 実施方法 (福)慈恵療育会 相模原療育園に委託 定員5名/1日(4/1現在) 対象者82名、登録者14名、延利用者数910名	
(4)個別計画の概要	概要
計画名 相模原市障害者福祉計画	障害者を主体とした施策を総合的に推進し、各種サービスを体系的に提供する。実施計画(前期H10~14、中期H15~18、後期H19~22) 地域福祉サービス
計画年次 10 年度 ~ 22 年度	

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

16,17年度は目標値

成果指標	指標名	指標式・指標の単位	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
	一日あたり平均利用者数	年間延べ利用者人数/年間稼働日数	5人を標準とする定員に対する一日あたり平均利用者数を算出し効率的な運用をめざす。	13	14	15	16	17
						4	5	5
活動指標	登録者数	4月1日現在の登録者数	当事業の登録者数により、適切な人数が利用されているか確認するもの。ただし、上限は20人程度。			14	15	16

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

事業費	決算(予算)額	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
		決算	決算	決算(見込み)	予算	予算(見込み)
				17,867	18,123	18,377
	人員・時間数			100H	100H	100H
	人件費			397	397	397
	その他経費					
	合計	0	0	18,264	18,520	18,377
	特定財源			8,934	9,061	9,188
	対象数(人)			82	85	85
	単位あたり経費(円)	#DIV/0!	#DIV/0!	222,731.7	217,882.4	216,200.0

10 個別評価(担当課による一次評価)

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	利用者が重症心身障害児(者)のため、体調により欠席する場合があります、利用実績が目標を下回っている。一日あたり利用平均を定員の5人に近づけることが今後の課題である。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 重症心身障害児(者)の方は加齢や停滞による身体機能低下が避けられないため、リハビリや訓練を行う必要がある。介護の中でも家族に大きな負担をかける施設への通所を支援することは必要とされる事業である。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		在宅の重症心身障害児(者)の方にとって、リハビリや機械入浴など施設でこそ受けられるサービスには要望が多い。家族にとっても負担の軽減になり、介護生活にとって高い効果をあげている。
		説明	
(4)効率性 評価 A ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input checked="" type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている <input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	国で定められた基準単価にて実施している。事業委託先は重症心身障害児施設であるため、適切なサービスを提供することができる。また施設が直接送迎することで効率的かつ一人一人の障害の程度に合わせた質の高いサービスを提供している。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	通所は利用者の任意によって行われ、毎日特定の利用者が占めているわけではなく、不公平にはあたらない。また食費実費相当の費用負担があり応分の負担が求められている。
(6)成果の向上及び費用対効果を高めるための方策		(7)今後の課題となっていること	
実施施設との協議のうえ送迎に係る効果的な運行ルートと、予約の調整を図る。 福祉事務所、児童相談所等から実施施設に利用登録者を増やす働きかけを行う。		国の求める標準人数(5人を標準とする定員)に利用平均を出来るだけ近づけられるようにすること。 在宅重症心身障害者の日中活動の場として、今後受け入れ態勢の整備を図っていく必要がある。	

11 総合評価(担当課による一次評価)

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較
今後の進め方		国の法律によって定められた基準に基づいて事業を実施しており、他自治体と大きな差異は無い。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	在宅の重症心身障害児(者)は、自宅のみにて生活を送ると運動機能や体幹機能の低下を招きかねない。機能回復訓練や専門の看護スタッフによる介護を受け、日中活動をする場として、施設への通所は欠かせない。さらに家族の介護の負担軽減という観点からも、今後も継続して支援を行う必要がある。
<input type="checkbox"/>	完了・廃止	
<input type="checkbox"/>	完了(廃止)済	

12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)

--